

笹川保健財団 地域啓発活動助成  
助成番号：2021-003

2022年 2月 10日

公益財団法人 笹川保健財団  
会長 喜多悦子 殿

## 2021年度地域啓発活動助成 活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

### 記

活動課題

「精神看護をもっと深く学ぶ会」

---

活動者（助成申請者）名：河村奈美子

## 1. 活動の内容・実施経過

### 1) 活動の目的

近年精神疾患は5大疾患となり、患者数は増加している。そしてまた、精神医療や精神ケアの提供される場も地域に移行し、医療機関を中心としたケアから、地域生活を支援するケアの重要性が認識されるようになった。実際に、看護を提供する場は、病棟から地域、学校などあらゆる場へと広がっている。

精神看護については、このような社会背景を受け、精神ケアを必要とする対象者の増加や、また対象者の持つ疾患にも多様性が大きくなっているように考えられる。ケアに携わる看護師は、病院における急性期治療から地域生活へのシームレスなケアの継続において、精神的ケアをどのように実施するのかという課題意識が高まっている。そして、精神疾患を持つ対象者の地域生活を支える訪問看護師等を含めた「看護職者の学びを通じた情報交換の場」や「サポートし合える場」は十分整っているとは言えず、看護師は日々ケアの実践をしながらも、悩むことも多い。

そこで、この活動の目的として、学習意欲・働く意欲につながる精神看護の学習会を企画することにより、令和2年度は看護師が学習を通して相談し合える場を提供し、定着させることを目指し、それを踏まえ、令和3年度は、学習コミュニティの形成を目指した。

これにより、精神科医療にたずさわる看護職者等のつながりの定着と、つながることのできる関係を基盤にした多職種に対する理解や相談が可能になると考えている。さらに、一人で活動する場面の多い看護師や、学習に対してブランクのある方も参加しやすい場を創ることにより、参加者の自信や、自身の看護技術を高める意欲にもつながり、それは、日々の患者ケアに還元されると考えた。

### 2) 活動の方法

学習会の開催準備：4回の精神看護学に関する学習会を企画した。内容は、すぐに一人でも使うことの出来る看護技術や対象理解に関するものとした。

今回は、講義の担当として、企画者の他に、第3回目は、羽田直子氏（医療福祉法人共栄会札幌トロイカ病院医長）、第4回目は、阿保順子氏（北海道医療大学名誉教授・長野県看護大学名誉教授）の協力を得て開催した。

#### (1) 学習会開催スケジュール

日程	テーマ	内容
第1回 7/10	患者の理解（自我の状態を捉える）	テーマを中心とした講義
第2回 9/11	患者の理解（アセスメントツールの活用）	+グループディスカッション
第3回 11/13	薬物療法と看護	+発表とディスカッション
第4回 2/5	精神看護における看護の役割	

(2) 対象者：精神看護の実践に関心のある医療系の専門職者

(3) 学習会の内容：対象理解について、重要でありながらも一人では学ぶことの難しい自我構造や自我状態のアセスメントを踏まえて全体をアセスメントし、看護の方向性

- を考えられるような練習を設定する。第4回は講義とディスカッションで構成した。
- (4) 学習会のスケジュール：1回を150分とし、①講義（重要かつ基本的な内容）、②グループワークによる事例や課題の検討（講義内容を事例を通して捉える：事例は個人が特定されないよう加工して説明する）、③グループワークの発表とディスカッション（グループワークによる内容を紹介し全体で議論する）で構成する。
- (5) 1～4回各回の評価：参加者から、感想、満足度について評価を得る。
- (6) 2020年度開催の学習会の最終評価：1回以上参加した参加者から、学習意欲の変化、感想、満足度、参加者同士の繋がりや仕事への影響について、評価を得る。

## 2. 活動の成果

Covid-19の影響により、当初の予定よりも初回の学習会の開催を3カ月延期して、日程を再調整した。また、打ち合わせについても、直接の会議の開催が難しいこともあり、Zoomを使用し、実施した。さらに、学習会そのものの開催に関しても、所属施設の制限があったため、Zoomを利用して、実施することに変更した。

### 1) 学習会の開催準備

フライヤーの郵送：予定通り、滋賀県を中心に近畿圏（滋賀県、京都府、大阪府）と九州、関東へ学習会の案内を郵送した。（精神科系の病院、訪問看護ステーション、教育機関（大学））

また、2回目からは、所属領域のHPにて広報を実施し、笹川保健財団のHPにも掲載を依頼した。

終了後の参加者へのアンケートはオンライン入力ツールを活用した。最終回は感想を参加者でシェアできるアプリとして「Learn Wiz One」を使用した。



**R3年度 精神看護をもっと深く学ぶ会**

日々、さまざまな形でクライアントの心のケアにたずさわっている。もしくは心のケアに関心のある看護・医療職者のみなさんと、クライアントの理解や看護について、ざっくばらんにわいわいと、学びませんか？

今年は、わいわいと学びあえるコミュニティづくりを目指します。

2021年度 日時及び場所				
	1回目	2回目	3回目	4回目
日時	7/10(土)	9/11(土)	11/13(土)	2/5(土)
	14:00-16:30 (Zoom交流会終了は17:00)			
場所	Zoomまたは滋賀医科大学（どちらでも可）※1			
内容 (講義&ディスカッション)	患者の理解 (自分の状態を伝える)	患者の理解 (アセスメントツールの活用)	薬物療法と看護 ※講師：羽田直子 (医療福祉法人 共栄会札幌トイロイ病院院長)	精神看護における看護の役割 ※講師：高橋麻子 (北海道医科大学 名誉教授)
	事例の理解とディスカッション			
	+ (終了後) Zoom交流会 (自由参加 30分程度)			
費用	なし			

※1. 参加方法について：Zoomを使用して参加していただきたいと思いますが、ご希望の方は滋賀医科大学医学部看護学科に来ていただくことも可能です。詳細は、お問い合わせください。  
※滋賀医科大学医学部看護学科にて参加される方はマスクの着用をお願いします。  
※終了後の「交流会のみの参加」は受け付けておりません。

問い合わせ・お申込み先：滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座（精神）坂本 真佳  
077-548-2399/2394 hgkokoro@belle.shiga-med.ac.jp  
企画：滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座（精神）河村尚美子  
協力：岩本祐一（大分大学医学部看護学科）

本学習会は笹川保健財団の助成を受け実施しています。

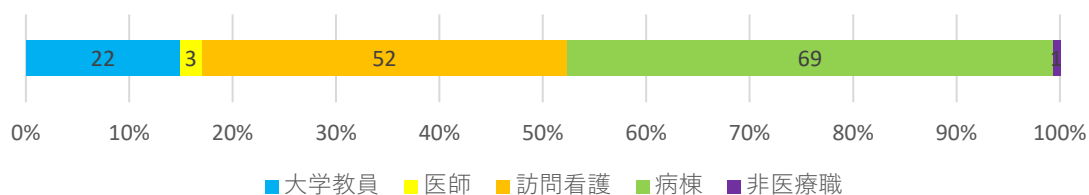
### 2) 活動環境の準備

学習会の開催に必要な物品の購入：模造紙、マジックペン、郵送費、フライヤー印刷費  
Zoom 使用の環境

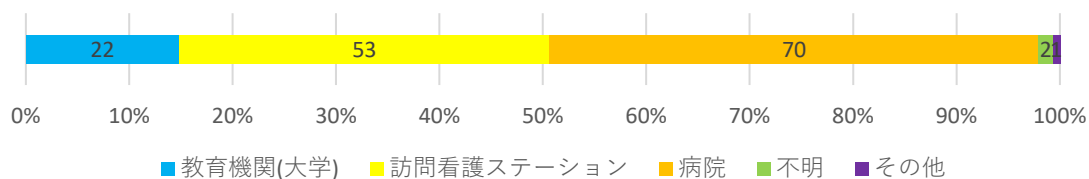
### 3) 参加者の概要(主催者1名、講師1名を含む)

日程	参加者数	参加人数と参加者の所属所在、( ) は人数
第1回 7/10	37名	北海道(1)、東北(1)、関東(3)、中部(4)、近畿(19)、九州(8)、不明(1)
第2回 9/11	46名	北海道(1)、東北(2)、関東(7)、中部(2)、近畿(20)、九州(12)、不明(2)
第3回 11/13	31名	北海道(1)、関東(4)、中部(2)、近畿(14)、九州(9)、不明(1)
第4回 2/5	34名	東北(2)、関東(5)、中部(3)、近畿(19)、九州(4)、不明(1)

(1) 1~4 回目の参加者 (のべ 148 名：主催者 1 名、講師 1 名含む) の主な業務 (人)

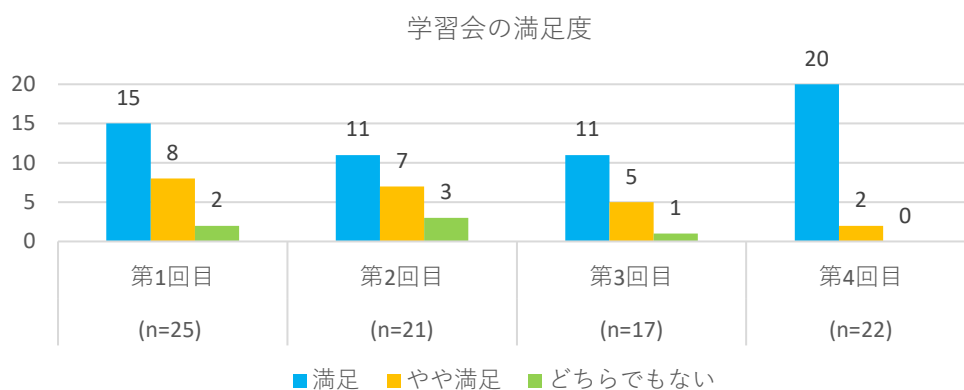


(2) 1~4 回目の参加者 (のべ 148 名：主催者 1 名、講師 1 名含む) の所属機関の種類 (件)



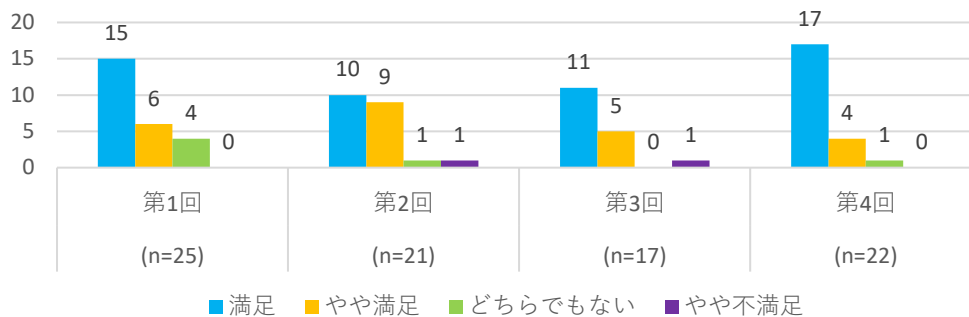
(3) 終了後アンケートによる、満足度及び感想 (各回自由記載欄抜粋、主催者と講師は除く)

各回における学習会満足度、学習会の「楽しさ」、学習会の「雰囲気」、意見交換についての回答件数



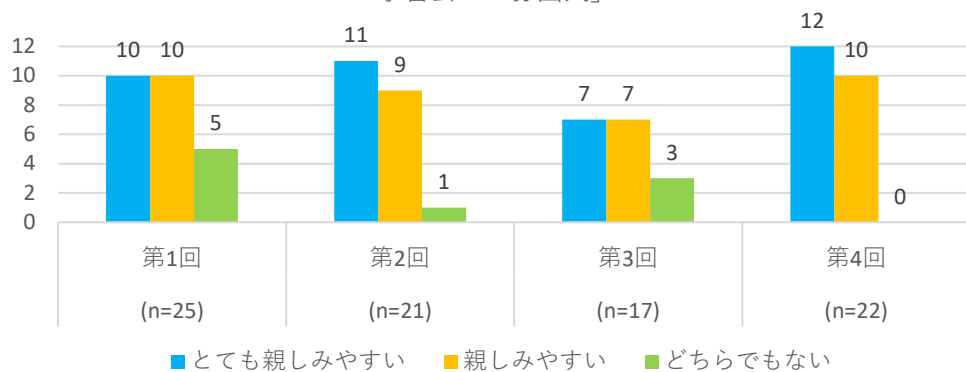
(「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」にて回答を求めた。「やや不満足」「不満足」の回答はなかった。)

学習会の「楽しさ」



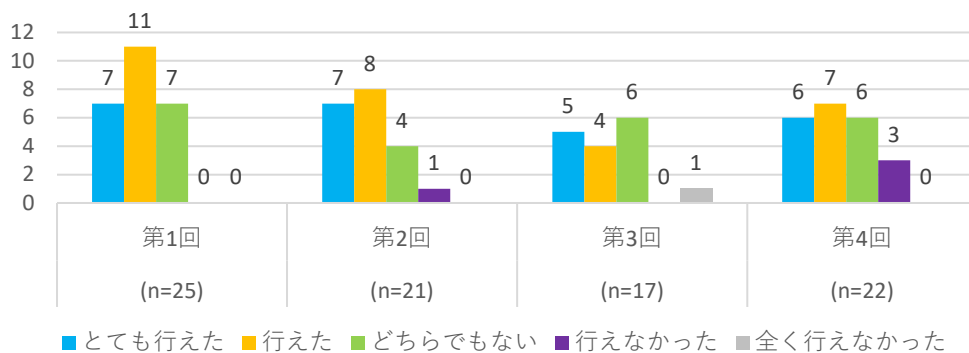
(「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」にて回答を求めた。「不満足」の回答はなかった。)

学習会の「雰囲気」



(「とても親しみやすい」「親しみやすい」「どちらともいえない」「堅苦しい」「やや堅苦しい」にて回答を求めた。「堅苦しい」「とても堅苦しい」の回答はなかった。)

意見交換を充分に行えたか



(「とても行えた」「行えた」「どちらともいえない」「行えなかった」「全く行えなかった」にて回答を求めた。)

## (4) 各回における感想の自由記載の紹介

アンケート自由記載 (計 53 件) より抜粋
<p>&lt;コミュニティに対する満足&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、精神看護について学ぶ機会がないので、全国の方と精神看護について、学び、話し合える機会を得られた事は、大変ありがたいです。</li> <li>・普段、精神看護について職場で話題になり話すことがないので、このような学習会に参加させて頂ける機会を頂き、また他の参加者の方とディスカッションで話す機会を得て、大変勉強になりました。</li> </ul> <p>&lt;継続的学習の意欲&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ、自我構造が分かりにくいですが、何度も繰り返し勉強していきたいと思います。</li> <li>・いま現場で起こっている患者さんについて話し合い、仲間からの多くのヒントを持ち帰ることで、精神看護の質向上に繋がり、援助者も自信を持って関わるができると思います。また、他の看護師の患者さんとの関わりを共有することで、類似した場面に出会ったときに自分の引き出しから即座に出して対応できます。</li> <li>・初めての参加でしたので、自我構造について理解ができていませんでしたが、他の参加者の意見を聞いていて、患者さんを理解するためには有効な…といいますか、必要な知識だと感じました。もっと学んでみたいと思いました。</li> <li>・自分がベテランといわれる年になると、自分より年上の経験豊かな看護師に話を聞く機会がなかなかなく、貴重な体験をさせていただきました。また、大学で教えておられることもあり、学問とリンクしていただき、大変わかりやすく。日々の臨床経験にも納得できる内容でした。</li> </ul>

## 3回目の様子 (Zoom 写真)



参加者には報告書への掲載の承諾を得ています。

## 4) まとめ

笹川財団の助成を受けた学習会としては2年目を迎え、参加者もZoomの機器を使いこなれてこれ、機器トラブルはほとんどなく4回の学習会を修了した。講義やディスカッションに医師やまた、精神看護界を牽引してきた看護師が入ることにより、また貴重な学習機会が生まれたように考えられる。

第4回目の最終回は、参加者32名中1名のみであり、94%の参加者が2度目以上の参加

者であった。ここからコミュニティが緩く形成されている兆候がうかがえる。しかし、アンケートでは必ずしもすべての参加者がグループワーク発言を積極的にできたと回答しているわけではないため、より参加しやすく発言しやすい会の開催を目指す必要があると考える。

### 3. 今後の課題

#### 学習会の継続実施

今回の学習会の実施は、徐々に参加者が増加し、この4回では平均30名を超えている。また交流会の実施によりつながりたい希望者が交流できる場も設定した。今後は、今回のコミュニティ形成が積極的に継続できる仕組みを作ることが必要であると考えられる。令和4年度は事例検討会を含み、さらに多職種との交流なども盛り込み実施を検討中である。